

2011年12月  
体験学習室 No.3

けんぱくものしりシート

ろく めい かん や かい ふく

# 鹿鳴館夜会服



これらは、明治時代（1868年～1912年）に、岩手県令（今の岩手県知事にあたる）の奥さんが、夜会（パーティー）で着たといわれるものを参考にして作ったドレスです。

「バツル・スタイル」という形で、1870年代から1890年代に世界で流行しました。そのころの日本は、長い「鎖国」（ごく一部の国をのぞいた外国人や、外国の文化が入ってくることを禁じること）が終わり、強い国に負けないう、西洋の文化をどんどん

取り入れて力をつけようとしていた時代にあたります。日本が文化の遅れた国ではないことをしめすため、政府は、明治16（1883）年に鹿鳴館という建物をつくり、外国人を招いて夜会をたびたび開きました。それまで和服を着て、ぞうりをはいていた日本の女性にとって、バツル・スタイルのドレスや靴はとてきゆうくつで辛いものでしたが、夫や父親に「お国のため」だと言われ、辛さにたえながらドレスを着ていたようです。

めいじじだい  
明治時代

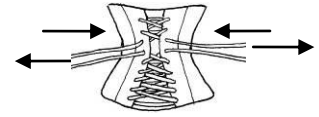
# バスル・スタイルドレス着こなし例

それまで女性たちは日本髪を結っていましたが、洋服にあわせて、西洋風の結い方を日本人に合うように工夫した「束髪」とよばれるいろいろなスタイルが考え出されました。



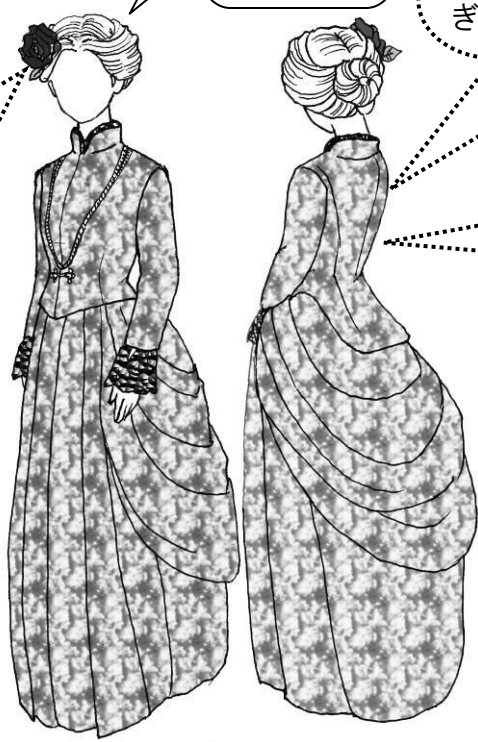
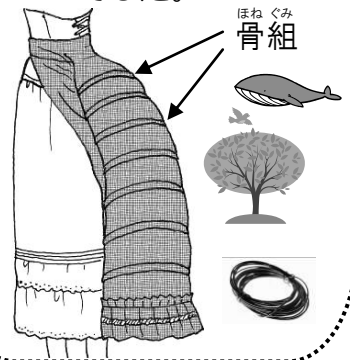
帽子もかぶります。

ウエストはコルセットでしめつけて細くしました。



※ひもを引くとウエスト部分がぎゅっとしまる

クジラの骨や針金、木などで骨組が作られた、布の下着「バスル」でおしりにボリュームを出すのがそのころの流行でした。



体験学習室にあるこのドレスは、みなさんがかんたんに着て楽しめるように作られており、バスルのかわりにチュールという布でスカートをふくらませてボリュームを出しています。

みなさんも、このドレスを着て、明治時代のはなやかな夜会の気分を味わってみませんか？

参考にした本『図説 日本文化の歴史11明治』小学館 1981年/『日本女性史大辞典』吉川弘文館 2008年  
『「知」のビジュアル百科14 衣服の歴史図鑑』あすなろ書房 2005年 他

来月(1月)の  
けんぱくものしりシートは  
地質-4だよ!  
おたのしみに!



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34  
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214  
http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/